

週間感染症情報

2022年2~4週 2022年1月10日より2022年1月30日まで

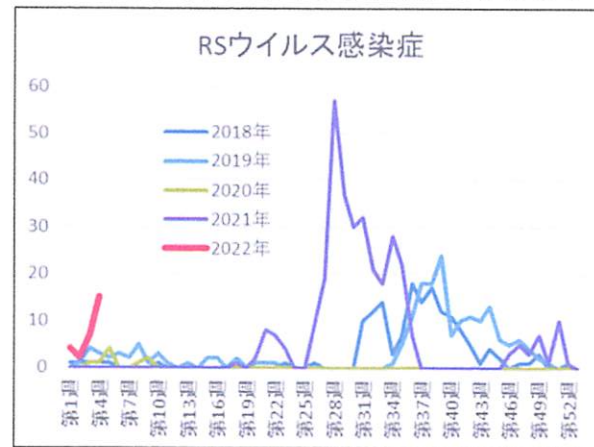
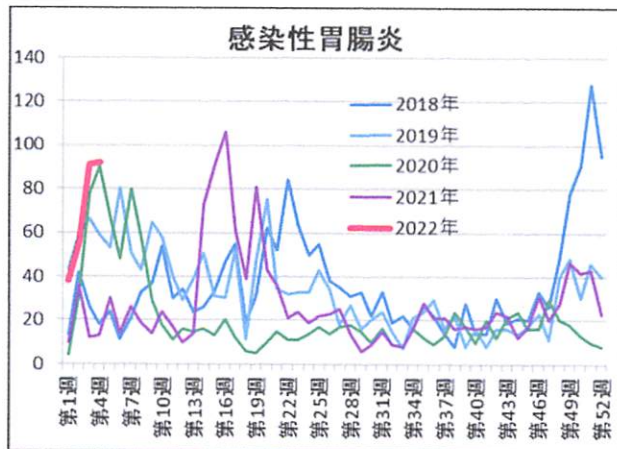
2週 3週 4週

麻疹			
風疹			
水痘(みずぼうそう)		1	
ムンプス(おたふくかぜ)			
百日咳			
溶連菌感染症			
手足口病			
ヘルパンギーナ			
伝染性紅斑		3	
感染性胃腸炎	56	91	92
ロタウイルス(再掲)			
腺ウイルス(再掲)	1		
突発性発疹	1	2	2
伝染性膿痂疹(とびひ)		1	1
ヘルペス性口内炎	3	1	
腺ウイルス感染症	3	2	1
RSウイルス感染症	2	7	15
マイコプラズマ感染症			
ヒトメタニューモウイルス			
新型コロナウイルス感染症	1	12	41
インフルエンザ A		1	
インフルエンザ B			

報告が遅くなりました。2~4週の3週の報告です。今回より、小児科の4診療所の新型コロナウイルス感染症の報告を掲載します。小児科関連だけでなくすべての陽性例の報告です。3~4週になり小児のPCR検査陽性例が増えていきます。これに伴い、学級閉鎖や学年閉鎖も増えています。総社市では、医師会と教育委員会で情報を共有して、早めに対応しています。また、学級閉鎖のルールを決めていおり、小児の感染者の増加はある程度抑えられています。インフルエンザは3週に1例のA型の報告がありました。コロナの感染予防対策で、今シーズンも流行はありません。それでも流行するコロナは、やはり「ただのかぜ」ではありません。しかし、感染対策をゆるめたアメリカなどでは、インフルエンザの流行が起こっています。日本人は子どもたちも含めて感染対策をよく頑張っています。

①体調不良の場合は無理せず休む ②密を避ける(換気が大切です) ③不織布マスクを着用する ④手指衛生 が大切な末から、下のグラフの様に、感染性胃腸炎の報告が増えています。多くがウイルス性です。ロタウイルスワクチンが定期接種となり、2年ほどロタウイルスの報告はありません。外来で輸液が必要となる症例は、ほとんどなくなりました。当院ではノロウイルスの検査はしていません。たまにアデノウイルス陽性例があります。

RSウイルス感染症が、再び増加しました。7月の流行時に罹患して、再び罹患する例もあります。軽症ですむようです。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)